

4. 海外フィールドワーク・国際交流事業

1. SGH 委員会主催による海外研修

(1) ハワイ研修

〈目的〉

生徒の英語によるコミュニケーション力の向上と、ハワイの文化や移民の歴史などを学習することを通じて世界に向けて開かれた視野とグローバル社会に対応できる資質を身につける。

〈内容〉

本校が SGH に指定される 1 年前の平成 25 (2013) 年度から始まった取組である。初年度から 7 月下旬に主に 2 年生を対象として実施しており、ハワイ大学マノア校における語学研修・現地のプナホウ高校との交流が毎年継続されてきた。平成 30 年度に行われたハワイ研修の内容についての詳細は、後の記録文を参照されたい。

(2) 東南アジア研修

〈目的〉

生徒の英語によるコミュニケーション力・情報発信力の向上と、現地での生活を体験することを通じてアジア社会に対する視野を広げる。また、経済成長著しいアジアの都市でのフィールドワークを通じて、「4つのアプローチ～文化・経済・防災・歴史」を意識した本校の SGH 課題研究において生徒が行う探究活動に資する。

〈内容〉

当初は SGH に指定された本校の 2 年次における課題研究とリンクした取組として設定された。しかしながら翌年 8 月に発生したバンコクのテロ事件などの影響を受け、その後の企画変更を余儀なくされた。当該の年度からは東南アジアの中でも比較的安全度が高いシンガポールをフィールドとした研修を実施している。平成 30 年度は英語によるコミュニケーション力の向上に重点を置き、研修日程を延長した上で現地の語学学校での講習を採用した。また、課題研究に向けた動機づけというねらいから、1 年生にも参加の機会を保障している。平成 30 年度に行われた東南アジア研修の内容についての詳細は、後の記録文を参照されたい。

〈成果〉

例年 40 人規模で参加希望の生徒を募集するが、応募者が 100 名を上回った年度もある。研修に参加した生徒自身にとっても、記録文に収録されたアンケートの結果や感想文に見られるように、各自が得たものや満足度は大きいといえる。

〈課題〉

一方で研修の実施に伴ういくつかの問題点が本校教員の中から指摘されていることも事実である。本校は今年度末で SGH の指定が終了する。海外研修の実施形態については、

SGH 後継事業のあり方もふまえた上で慎重に検討していくことが求められる。

2. 国際交流委員会主催による海外研修

平成4（1992）年3月にさかのぼるアメリカ・ケントウッド高校との交流をルーツとして、本校と海外の高校との提携・交流は、双方の生徒が相手校を訪問し、実際に授業を受けるなどの形で行われてきた。現地で生徒が滞在する形態は相手校生徒の家庭でのホームステイである。現在、校内組織である国際交流委員会が主催する海外研修（交流）は以下の2種類である。

（1）アメリカ・ケントウッド高校との交流

例年7月の中旬から下旬にケントウッド高校・ケントレイク高校（府立阿武野高校と提携）から生徒が来日し、本校と阿武野高校を訪問する。3月下旬には本校および阿武野高校の生徒が提携相手校を訪問する。

（2）台湾・建国高級中学校

今年度は5月に建国高級中学校の生徒が本校を訪問した。また、3月下旬には本校の生徒が台湾での研修旅行に参加し、建国高級中学校および第一女子中学校を訪問して交流を行う。

さらに国際交流委員会では、次年度末（西暦2020年3月下旬）に本校の生徒が訪問する計画のもとに、オーストラリアのシドニー近郊にあるクロークウェル高校との連携を進めているところである。

【日程表】

平成29年12月21日 作成

大阪府立北野高等学校平成30年度東南アジアフィールドワーク研修旅行

株式会社近畿日本ツーリスト関西 大阪教育旅行支店

日次	月日	曜	発着地・滞在地	現地時間	交通機関	摘 要	食事
1	7月22日	日	関西国際空港 関西国際空港 シンガポール・チャンギ国際空港	8:00 10:55 16:40 19:00	発 着 着	8:00 SQ-619 ご集合 空路、シンガポール航空にて シンガポールへ 専用車 到着後、専用車にて移動 シンガポール市内にて夕食後、ホテルへ (RELCインターナショナル 泊)	機 機
2	7月23日	月	シンガポール	午前 午後	滞	ホテルにて朝食 ～RELCにて語学研修～ 語学学校にて英語研修① 語学学校にて英語研修② (RELCインターナショナル 泊)	朝 ×
3	7月24日	火	シンガポール	午前 13:00 18:15	滞	ホテルにて朝食 語学学校にて英語研修③ 【アジア・オセアニア公文訪問】 現地で開催する日系企業を訪問 ディスカッション・プレゼン 市内レストランにて夕食後、ホテルへ (RELCインターナショナル 泊)	朝 ×
4	7月25日	水	シンガポール	9:00 13:00 18:15	滞	専用車 ホテルにて朝食 専用車にてシンガポール大学へ 【シンガポール国立大学訪問】 現地学生とフリートーキングセッション ※大学内にて各自昼食 【市内班別自主研修】 MRTを乗り継ぎフィールドワーク 市内レストランにて夕食 夕食後、リパークルーズ・スカイパークへ (ロイヤルホテル 泊)	朝 ×
5	7月26日	木	ジョホールバル シンガポール	9:00 13:00 18:15	着 着	専用車 ホテルにて朝食 専用車にてマレーシア工科大学へ 【マレーシア工科大学訪問】 現地学生とフリートーキングセッション ※大学内にて各自昼食 【イスカンダル計画見学】 エデュシテイ、メディニ地区、ショッピングモールなど シンガポール市内レストランにて夕食 (ロイヤルホテル 泊)	朝 ×
6	7月27日	金	シンガポール	9:00 13:00 19:00	滞	専用車 ホテルにて朝食 専用車にてマリーナパラジッへ 【マリーナパラジッ等見学】 現地企業ニューウォータービクターセンター訪問 市内レストランにて昼食 【セントーサ島自主研修】 ユニバーサルスタジオ等 フィールドワーク 市内レストランにて夕食後、ホテルへ (ロイヤルホテル 泊)	朝 昼
7	7月28日	土	シンガポール・チャンギ国際空港 シンガポール・チャンギ国際空港 関西国際空港	8:30 11:30 13:55 21:30	着 発 着	専用車 ホテルにて朝食 市内観光（ラッフルズ上陸地点・ガーデンバイザベイなど） その後、専用車にて空港へ 到着後、チェックイン 帰路、関西国際空港へ 到着後、入国手続きを済ませ、解散 お疲れさまでした。	朝 ×

☆発着日時及び交通機関は変更になることがあります。 ●食事（朝→朝食、昼→昼食、ター夕食、機→機内食）
 ☆無手配日の期間は、当社により航空機、ホテルなどの手配サービスの手配を全く行っておりません。
 当期間にお客様が被った被害については当社約款に基づく補償金等の支払いの対象となりません。

東南アジアシンガポール研修引率報告書（7/22～7/28）

■第1日（7/22（日））

午前8時関空集合、引率教員による注意事項と教頭の激励の後に、SQ619 便にて関空を出発。今後各所で点呼の必要があるため、出国審査後すぐにクラス別の班と班長を作り生徒相互による点呼と報告の方法を決めた。研修中最後まで、迅速で正確な点呼が実施できた。（現地到着後は活動班別の班長による点呼とした）無事シンガポールに到着し、シャトルバスで市内の中華料理店に移動。皆、バスの車窓から市街地の風景を楽しんでいるようであった。夕食は好評だった。夕食時に毎回生徒が交替で挨拶を行い、自発的にショートスピーチを行う習慣ができた。その後ホテルに移動し、英語によるオリエンテーションが行われた。皆、異国での宿泊を楽しんでいるようであった。ホテルへは遅い到着であったが予定通り22時頃には皆眠りについた様子が伺えた。前半の3泊は、語学研修が行われる Regional Language Center（RELC）併設のホテルに宿泊する。

■第2日（7/23（月））

Regional Language Center（RELC）における語学研修が始まった。午前、午後とも3つのクラスに分かれて、語学学校（RELC）の教員による授業を受講した。昼休みは、男子は現地係員と添乗員の引率で初めて市街のフードコートを経験した。女子はホテルのカフェテリアで昼食後、Shangri-la ホテルのパブリックエリアを見学した。米朝会談でトランプ大統領が宿泊したホテルである。

また、夜は全員で市街のフードコートで夕食を取った。その後、全員で世界遺産のボタニカルガーデンを見学した。午前の開校式で語学学校の校長 P 氏とシンガポールの環境政策について情報交換した際に推薦されたボタニカルガーデンである。ルールを守って迅速に行動し充実した時間となったようである。全員の体調は良好であった。

行程中は教員間で、東南アジア研修を課題研究でどう活かすべきか、文系と理系の両方の分野から検証する材料とすることを確認し意見交換した。また、今回の参加生徒にとって5泊のシンガポールがより充実したものになるよう現地で工夫できることを打ち合わせた。シンガポール研修は環境教育という視点からも有意義なものになると感じた。担当の課題研究班の2年生も参加しているため、情報提供や意見交換の機会を取ることができ、有意義だった。

■第3日（7/24（火））

午前中は RELC において語学研修第2日である。生徒は2～3人ずつの班でシンガポールの特色に関する調査学習を行い作成した手書きのポスターを用い、全員が交替で英語によるプレゼンテーションを行った。良い経験になったようである。どの班も昨日の遠征後にホテルの部屋で遅くまでポスターを準備し、タイトなスケジュールでよく頑張っていた。

午後は企業訪問を行った。訪問先は SHINOBI SAUCE（しのびソース）という食品加工業の会社である。社長は伊賀に所縁の F さんという方で、社名には忍者という意味の「しのび」を冠している。この日は工場のラインを止めて、社長自ら工場見学を引率し、献身的に詳しい説明をくださった。皆、見学時にとっても熱心にメモを取りながら聞いていた。

若い現地の従業員3名が班別に加わりディスカッションを行った。皆、従業員の方々の専門分野と進路選択の話を興味深く聞いていた。産学連携等の企業の学生研修受け入れのコーディネートをやる日本人女性の尽力も大きかった。日本語教師とコーディネートの両方をこなす20年現地在住の女性の仕事ぶりは、進路に悩む高校生が進路を考える上で、選択には多様な可能性があるという、1つのヒントを得たのではないか。シンガポールの環境政策について探究する方法を相談したところ、良いアドバイスを得た。スカイプを活用して仕事をされており今後も課題研究の質問にも応じてもらえるとのことである。日本から準備してきたパワーポイントで日本紹介のプレゼンテーション3種類を行った。



■第4日(7/25(水))

午前中はシンガポール国立大学を訪問し、大学生と少人数班別のディスカッションを行った。皆、英語でのディスカッションに1時間熱心に取り組んだ。活発なコミュニケーションの場となり、とても楽しそうであった。その後1時間の班別キャンパスツアーを大学生の引率で行った。このような長時間の英語のディスカッションが成立するのは珍しいと係員の賞賛をいただいた。その後、学生食堂によるケータリングで昼食を取った。非常に美味で皆喜んでいた。はじめの挨拶と、御礼の挨拶についても直前に希望を募ると積極的に名乗り出てしっかりと行った。

午後には班別の市内自主研修(MRT等の交通機関を自由に利用)を行った。生徒全員が自主的に事前に計画を練り戻る時間を計算し、予定どおり集合した。毎回の集合で班長による点呼と報告により数分で全員の安全確認ができる。全員が迅速に安全に行動でき、優秀であった。

専用バスで移動後、市内の中華料理店で夕食を取った。夕食後のマリーナ地区の見学では、ボートに乗り(リバークルーズ)マリーナベイサンズに移動した。光と音のショーを観てからマリーナベイサンズホテルの展望台スカイパークに上がり皆、楽しそうであった。特に夕焼けに映える川からの景色に皆歓声を上げていた。

また第4日より、クオリティーホテルでの宿泊となる。皆互いに仲の良い友人が増え和気あいあいとした様子である。

■第5日(7/26(木))

専用バスで橋を渡り国境を越えて陸路でマレーシア(ジョホールバル)に入国する。バスを降りて出国と入国の審査を行う。同じ橋を使って、午前中には多数の労働者がマレーシアからシンガポールに入国し、また夕刻には逆方向に渋滞する橋を渡って帰っていく。その労働者の人々とすれ違う経験は貴重であった。

マレーシアに到着後はマレーシアの現地ガイドと合流し、マレーシア工科大学を訪問。民族衣装を身にまとった50名程度の大学生と大学教員の方々に大歓迎された。歓迎会で

は2年生2名と引率教員が挨拶を行った。大学生2名のマレーシア紹介プレゼンテーションを聞いた。返礼として本校生も予定通り、3つの班が3種類の日本紹介のプレゼンテーションをパワーポイントと動画などを用いて行った。第3日の日本企業でのプレゼンテーションの経験も踏まえ、さらに改善していた。聴衆の大学生にも好評のようであった。交流の時間は、マレー語やその他の民族の言語と文字を体験する班、民族衣装を体験する班、マレーシアの遊びを体験する班2種の4つの班に分かれ、順番に全員がすべての内容を体験できるように企画されていた。大学生の方々に親切に教えてもらって、生徒たちはとても楽しんだ様子である。マレーシア工科大学の人々の穏やかさ、優しさに感銘を受けたと、生徒たちは名残惜しんでいた。マレーシア工科大学では大学教員多数をあげての歓迎と協力をいただいた。

その後、社会見学としてイスカダル計画（エデュシティ、メディニ地区）を見学した。昼食はジョホールバルのショッピングモールのフードコートで取った。ショッピングモールではマレーシアの急速な近代化に触れ、シンガポール再入国の際には出稼ぎ労働者の通勤ラッシュの厳しい現実を垣間見ることとなった。毎日の専用バスでの移動中、シンガポールの現地ガイドの方のお話は大変勉強になった。どの文献にも書かれていないような現在のシンガポールとマレーシアについての情報である。向学心のある生徒は詳しく聞いて学んでいる様子であった。



■第6日（7／27（金））

マリーナバラッジ、植物園、ニューウォータービジターセンターを見学した。シンガポールの環境政策は国際社会が注目する水準である。特に浄水技術に関しては欧米の研究者の見学も多いそうである。皆、ニューウォータービジターセンターで英語の解説を熱心に聞き、体験コーナーを積極的に体験しながら意欲的に見学していた。帰りに感想を述べ合うと良く学んだ様子が伺えた。

午後には、セントーサ島に専用バスで移動し自主研修を行った。多くの生徒がユニバーサルスタジオシンガポールに入場した。2年生男子生徒は水族館等を見学した。良い思い出となったようである。毎回の夕食時には、交替でショートスピーチを行っており頼もしい雰囲気だった。今回の夕食を含め、食事は毎回好評であった。その後、満月前夜の月（翌日はマイクロムーン、見かけの大きさが最小の満月）を名残惜しみながら空港へと向かった。

■第7日（7／28（土））

深夜のSQ618便にてシンガポールチャンギ国際空港を出発し、同日午前に関西空港に無事到着した。引率教員、添乗員、校長の挨拶の後に解散した。生徒達は各自、関係者に御礼を述べ、帰路についた。

※行程の概略

- (1) 語学研修 **Regional Language Center (RELC)**
- (2) 社会見学 ①シンガポール：New Water Visitor Center (浄水施設)、植物園 等
②マレーシア：イスカンダル計画
- (3) 国際交流 ①大学訪問：シンガポール国立大学、マレーシア工科大学
(大学生との交流は活気ある班別ディスカッションとなり、大変有意義であった。訪問先では日本紹介のプレゼンテーションを行った。この間に陸路で国境を越えてジョホールバルに渡る体験をした。)
②食品加工会社 **SHINOBI SAUCE**(しのびソース)見学
- (4) 自主研修 ①シンガポール市街 ②セントーサ島

各場面で、生徒同士で点呼や短いスピーチを行い適切に進行した。全行程を通じ、皆、熱心に取り組み、各自が安全や健康に留意しながら、国際都市シンガポールやマレーシアの様々な状況を直接見て学ぶことのできる有意義な研修であった。

東南アジアシンガポール研修生徒報告

1年 T. M

私にとって、シンガポールでの一週間はとても充実したものであり、さらに自分にとってためになるものだったと感じる。この語学研修を通して気づいたこと、感じたことを2つ挙げたい。

私は語学研修中のプログラム、シンガポール大学の訪問で、1人の学生に質問をした。「シンガポールではたくさんの人種の人がいるけど、すれ違いが起きたり、ぶつかり合ったりしないのですか」と。その学生はこう答えた。「確かにたくさんの人種の人が集まっていて文化の差はある。しかし僕たちは、みんなが違う意見をそれぞれ持っていて、それぞれの文化が異なることを知っているから、その違いを逆にハーモニーにすることができるとだよ」と。その学生の意見に私はとても共感した。皆それぞれ異なった文化を持っているのは当然であり、それらを調和し、より良い社会を築き上げることが可能になれば、どれだけの問題を解決することが出来るのだろうか。今私たちに必要なのは、それぞれが異なった文化を持つことを理解し、受け入れていくことであると、この研修を通して気づくことができたのである。

私は、学校の授業など、英会話の経験ができる場面では積極的に英語で会話しようと意識している。しかし、やはり心の何処かで相手が日本人であり、英語でなくとも日本語でも通じるということに甘えてしまっている部分があったように今思う。全く言いたいことが伝わらない時、なんと訳せば良いかわからない時、最終的には日本語でその場をしのいでしまっていた。しかし、外国では日本語は当然のように通じない。知っている英単語を最大限に活用して、またふさわしい英単語が見つからない時は、ジェスチャーを用いて、なんとしてでも伝えないといけない。私はこのシンガポール滞在中、「日本語では通じない」という厳しい環境の中で英語を学んだことにより、英語のコミュニケーション力が上昇し、さらにこれから日本で英会話をするときに意識しなければならないことを見つけることができた。

シンガポールでの語学研修でたくさんのことを学んだが、学んでそこで終わりにせず、その学んだことを生かして、これからもさらに学び続けていきたい。

1年 F. K

そもそも、私がこの研修に応募したのは、将来英語が話せるようになるために、一度海外がどんなものか経験したかったからだ。この研修が始めての海外だったので、向こうで体験した全てのことが新鮮に感じた。まず着いて思ったのが、日本車が多いなことだ。海外の中の日本とはどういう感じなのか、漠然としたイメージしかなかったが、実際に行ってみると、日本のものが思っていたより多いという印象を受けた。そして、行く前からシンガポールと中国は近いという印象もあったが、ご飯の中華料理の多さからやはりそうだと認識した。そして、RELCでの研修ではシンガポールの歴史について学ぶことができ、歴史好きな私はとても楽しく受けることができた。日本は第二次世界大戦のとき深くかかわっていたということを知った。また、日系企業とマリーナ・バラッジの見学では、シンガポール政府が小さい土地の中で効率よく生産する仕組みをとっていることを知

り、日本との差を感じた。

このシンガポール研修では、貴重な経験をたくさんしたが、中でも印象に残っているのは、大学生との交流や、市内の店舗でものを買うときにした、外国人との一対一の英語での会話であった。あらゆるところで英語で会話したが、気づいたことが二点あった。一つは、意外と英語というのは、文がしっかりしていなくても伝わるということ。私はできるだけ文章にして伝えようとしたが、やはり、知らない単語や表現がまだまだ多いので、どうしても単語を並べることになってしまうのだ。でも、相手も聞き取ろうとしてくれるので、なんとかか会話にはなった。しかし、流暢に話せるほうがいいので、文法と単語はこれからも勉強をがんばろうと思った。

もう一つは、先ほどいった、割と拙い英語でも会話にはなるということを前提としたとき、結局英語で大事なのは一対一のコミュニケーション力であるということ。私は特に店でモノを買うときにそれを痛感した。何回もモノを買う機会があったが、その度に緊張してしまって、小さい声になってしまって、店員さんが困惑するということがあった。これは英語どうのこうのよりも、コミュニケーションの問題だと思う。特に外国の店員さんはグイグイ来るので、特に緊張してしまった。たぶん単語並べただけでも伝わるので、チャレンジして外国人と相手するのが大事だと感じた。

私はシンガポールに行き、日本よりもいいところ、反対に日本の方がいいところをたくさん見つけました。例えば、シンガポールには「National Day」という、国の誕生日を総出で祝うものがある、それはとてもいいなと思った。反対に、日本の方がいいなと思ったのは治安です。シンガポールにいたときは、ガイドさんや先生からも「荷物から目を離すな」と何回も言われましたが、閑空に帰ってご飯屋さんに行くと、客の人がみんな荷物を入り口に置いて、ご飯を食べているのです。これを見た瞬間、驚いてしまって、これが日本かと思ってしまった。今回はシンガポールとマレーシアだけだったが、これから先、もっと海外に出て、その国を知るとともに、日本と何が違うのか肌で体感できる機会があればいいなと思った。

2年 T. M

私は今回の東南アジア研修を通じ、様々な新しい体験をすることができた。

一つめは、シンガポールの言語体系についてだ。シンガポールの公用語は英語だ。しかし、シンガポールに住んでいる国民の多くは中華系やマレー系、インド系など母語が英語でない人たちである。そこで学校では公用語の英語だけでなく、伝統的な言語も一つ選んで学習しているそうだ。これは自分たちの国の本来の文化を忘れないための工夫の一つだと感じた。

二つめは、高層ビルが建ち並ぶ一方で市街地にはたくさんの緑があったことだ。シンガポールは独立して今年で53年の国だが、リゾートやホテルが開発され、世界でも有名な大企業のオフィスが並び、急速に発展している。そのため、私は今までシンガポールは経済発展だけを優先して進めてきたと考えていた。ところが、今回の研修を通じて日本よりも環境への意識が高いことがよくわかった。例えば、チャンギ国際空港には50万以上の植物があり、壁に植物が植えられていたりする。街中も同様に緑が大変多い。日本の市街地は建物ばかりで植物はあまり育てられていない。ヒートアイランド現象や地球温暖化の対策として、日本もシンガポールのように都市と緑を上手く共存させることができればいいなと思った。

いと思った。

三つめは、水の問題についてだ。日本にいる時は好きな時に好きなだけ当たり前のように水を飲んでいるが、世界にはシンガポールのように水不足の国が少なからずあることを知った。実際、シンガポールでは国で必要とする水を賄うだけのダムや湖などが圧倒的に不足している。さらにマレーシアからの水の輸入も2061年までとなっているため、国を挙げて水不足に取り組んでいるようだ。研修で訪れたニューウォーター・ビジターセンターでは下水処理により再生された水を飲んだが、飲料水としておいしく飲むことができた。この工場の技術は世界的に見てもかなり優れているようだ。

今回の研修は私にとって二度目のシンガポール訪問だった。初めての訪問時にはわからなかった数々のことに新しく気付くことができた。シンガポールの経済発展、それに伴う社会のひずみ、文化の多様性等、多くのことを肌で感じることができた有意義な7日間であった。

大阪府立北野高等学校平成30年度SGHハワイFW研修旅行
【日本航空ご利用の場合】

株式会社近畿日本ツーリスト関西 大阪教育旅行支店

日次	月日	曜	発着地・滞在地	現地時間	交通機関	摘 要	食事
1	7月22日	日	関西国際空港	16:30	JL-8792	ご集合	機
			関西国際空港	発 19:05		日本航空にてホノルルへ出発	
<～日付変更線～>							
			ホノルル空港	着 8:10	専用車	ホノルル空港到着、入国審査	昼
				9:10		ホノルル市内観光へ ・モアナルアガーデン（全体写真） ・ヌアヌパリ展望台見学 ・ドールプランテーション見学	
				15時頃		ホテル到着（チェックイン後は各自周辺散策）	
				18:00		アラモアナショッピングセンター フードコートにて夕食 （アラモアナホテル 泊）	夕
2	7月23日	月	ホノルル	8:00	専用車	ホテルご出発	朝
				8:15		ハワイ大学到着	
				9:00		SGH研修スタート	×
				14:30	専用車	授業終了	
				15:05			ダイヤモンドヘッドハイキング
				16:45		ハワイ大学寮到着 （ハワイ大学寮 泊）	夕
3	7月24日	火	ホノルル	9:00		語学研修開始	朝
				14:30		授業終了	
				15:00	徒歩	ハワイ日本文化センター見学	×
				16:45			
4	7月25日	水	ホノルル	9:00	専用車	SGH研修開始	朝
				12:45		ハワイ大学出発	
				13:10		BISHOP MUSEUM見学	×
				15:00		PUNAHOU SCHOOL訪問	
				16:00		PUNAHOU SCHOOL出発	
				16:30		ホテル到着（再チェックイン）	
				20:30		夕食後（ドンキホーテーフードコート）、ホテル到着 （アラモアナホテル 泊）	夕
5	7月26日	木	ホノルル	8:30		ホテル出発	朝
				9:00		SGH研修開始	
				14:20	滞	研修終了	×
				14:45		ワイキキ班別研修（グループ単位/単独行動禁止） （18:45にホテルでチェックを受ける事）	
				18:45		ホテル集合	
				19:00		アラモアナショッピングセンター フードコートにて夕食	
				21:00		ホテルロビー再集合	
				23:00		就寝 （アラモアナホテル 泊）	夕
6	7月27日	金	ホノルル	8:30	専用車	ホテル出発	朝
				8:35		ダウントウンフィールドワーク ※移動中の路線バスは実費	
				11:45		アロハタワー再集合	×
				12:15		ハイアットリージェンシーにて修了式	
				14:30		修了式終了後、自由時間	
				16:30		ハイアットリージェンシー出発（ディナークルーズへ）	
				20:30		ホテル到着（ホテル到着後、帰国の準備） （アラモアナホテル 泊）	夕
7	7月28日	土	ホノルル	7:30頃	専用車	ホテル出発	朝
				8:30		ホノルル空港到着	
				10:30	JL-8791	空港到着後、搭乗手続き、出国審査	×
						ホノルル空港到着空港より、空路帰国の途へ	
<～日付変更線～>							
						（機内 泊）	機
8	7月29日	日	関西国際空港	14:20		到着後、入国手続きを済ませ、解散	機

☆発着日時及び交通機関は変更になることがあります。 ●食事（朝→朝食、昼→昼食、夕→夕食、機→機内食）
☆無手配日の期間は、当社より航空機、ホテルなどの手配サービスの手配を全く行っておりません。
当期間にお客様が被った被害については当社約款に基づく補償金等の支払いの対象となりません。

ハワイ研修引率報告書（7/22～7/29）

■第1日（7/22（日））

関西国際空港を出発し、ホノルルにあるダニエル・K・イノウエ国際空港に到着。陽気なバスガイドさんの案内のもと、ホノルル市内を観光した。日立の樹で有名なモアナルアガーデン、オアフ島の東海岸を一望できるヌアヌパリ展望台、太平洋戦争の様子をアメリカの立場から描写するパールハーバービジターセンターを訪問した。ハワイの雰囲気を感じた。初日はアラモアナホテルに宿泊した。文字通り、アラモアナショッピングセンターが目前にあり、とてもきれいなホテルであった。

■第2日（7/23（月））

これからの学び舎になるハワイ大学マノア校に初めて向かった。とても自然豊かなキャンパスで、勉学に励むには最高の環境であった。到着するとまず、歓迎セレモニーが行われた。今回の研修に携わるハワイ大学のスタッフによるスピーチが行われた後、実際に授業を行う3人の先生が紹介された。その後、6～7人の各テーブルにハワイ大学のスタッフが座り交流が始まった。緊張してあまり話することができない生徒や、身振り手振りを交えながらハワイの第一印象を述べている生徒などさまざまでしたが、皆一様に生き生きとしながら英語でコミュニケーションを取っていた。

歓迎セレモニーの後、3クラスに分かれて授業が始まった。実際の大学の教室を使った英語の授業はとても新鮮だったように思う。授業後は、ダイヤモンドヘッドのハイキング。思った以上にハードなハイキングだったが、山頂に到達すると青い海と空が見え、生徒も我々教員も達成感に満ち溢れていた。この日と第3日は、ハワイ大学にある寮に宿泊した。他の在學生や留学生とともに大学生活を過ごすことができた。

■第3日（7/24（火））

午前中は語学の授業に加えてフラダンスの授業を受けた。陽気な先生が、ハワイの歴史を交えながら教えてくれる。生徒とともに私も初めてフラダンスを踊ったが、想像以上に難しかった。生徒（特にダンス部員）は飲み込みが早く、軽快に踊っていた。午後の授業を終えてからは、ハワイ日本文化センターに行った。ハワイにおける日系移民について様々な学びがあった。

■第4日（7/25（水））

午前中、前日に学んだ日系移民についての講義があった。生徒からの質問も多くあり、段々と英語を話すことに積極的になっていることに感心した。私自身も日系移民について知らないことが多かったので聞いてよかったと感じた。午後はビショップ美術館と、オバマ前アメリカ大統領の出身校であるプナホウ高校を訪問した。プナホウ高校はとてもきれいで広く、大学のようなキャンパスだった。短時間であったが、在學生と交流することができた。

■第5日（7／26（木））

日本人生徒が2～3人に分かれ、その中にハワイ大学の大学生が入る交流会があった。日本での生活を話したり、ハワイについての質問をしたり、各グループ英語で会話を楽しんでいた。午後はワイキキ研修。グループに分かれ思い思いにホノルルを楽しんでいた。ワイキキビーチはザ・ハワイと呼べるような光景で、多くの人でにぎわっていた。

■第6日（7／27（金））

午前は最後の研修であるダウンタウンフィールドワークを行った。授業のクラスに分かれ、授業で勉強した観光地を各担当者が説明していた。英語だけではなくハワイの歴史・文化も学べるので、とても良い活動だったと思う。午後はホテルで修了式が挙行された。生徒たちは研修の成果がわかる素晴らしいスピーチをしてくれた。

夜はディナークルーズを楽しんだ。きれいな海と夕日、豪華な食事、ハワイの踊り、太陽が沈んでから打ち上げられる花火などがあり、とても素晴らしかった。生徒も一緒に踊ったり、花火に見とれたり、食事を楽しんだりして最後のハワイの夜を楽しんでいた。

■第7日（7／28（土））

ホノルル空港出発、翌日14時に無事関西空港に到着し解散した。あっという間だったが、生徒にとってとても貴重な経験だったと感じている。参加生徒には、ハワイで学んだ英語力・コミュニケーション力・日系移民などの知識・積極性をこれからの学校生活に生かすことを大いに期待している。

※行程の概略

- (1) 語学研修 ハワイ大学マノア校
- (2) 社会見学 ハワイ日本文化センター、Bishop Museum
- (3) 国際交流 PUNAHOU School
- (4) 自主研修 ワイキキ研修、ダウンタウンフィールドワーク

ハワイ研修生徒報告

1年 K. R

私は、この8日間に及ぶ研修で学んだことは、大きく分けて2つある。

1つは、ハワイの歴史だ。現在のハワイでは、様々な人種の人が互いに仲良く暮らしている。だが、価値観の違いなどで亀裂が生じ、争いが絶えなかったという時期もあったのだ。原住民の人々は、自分達で築き、継承してきた文化に終止符を打たねばならない所まで追いやられた。日本人も最初は差別など、いろいろなものに苦しんできた。しかし、彼等は頑張って生きてきた。そんな彼等の努力があったから、現在、差別を受ける事も無く、また原住民の文化も継承され、平和に過ごせるのである。私はそんな歴史の深さにとっても驚かされた。なぜなら、代表的なリゾート地である現在のハワイからは、そのような重い歴史があったことがあまり感じられないからだ。今回、歴史も含めたハワイを学ぶことができて、本当に良かったと思う。また、このような歴史は、後世の人々に語り継いでゆくべきだと感じた。

あと1つは、積極的に他人と会話をしようとする事の大切さである。私は、今回の研修に参加するにおいて、できるだけコミュニケーションをとるという事を心掛けていた。最初のコミュニケーションは、入国審査の時だった。とても簡単な質問しかされなかったが、自分が思っていたよりも、落ち着いて話すことが出来なかった。また、最初にお店などに入ったときも、日本とは全然異なる雰囲気圧倒されて、その時思っていたことをうまく伝えることが出来なかった。ハワイに行く前の私が思っていた以上に、英語を話すには勇気が必要だったのだ。だが、大学での授業やインターチェンジをするにつれて、より気軽に英語で話す事が出来るようになった。また、会話をするにつれ、いい気分になった。自分の持っている知識としての英語が、活きた英語に変わったことを実感した。普段学校では得ることができないこのような経験は、この夏私を一回り成長させてくれたように思う。

2年 N. M

私は幼い頃海外へ旅行した際に英語を話すことが出来ず、苦い経験をしたことがある。その経験からか、北野高校に入学してこの研修のことを知った時は迷わず参加を希望した。英語の上達を信じて臨んだハワイ研修だが、ハワイ大学での授業は All English で自分の伝えたいことを全て表現することが出来ず、悔しく、もどかしい気持ちになるとともに、自分の英語力の低さを実感した。その中でも、ハワイ大学生との Interchange では受身形のレクチャーとは違って、常に話さなければならないという状況に置かれることでより一層英語の壁に悩まされた。しかしそんな私に、大学生の方は笑顔で優しく、丁寧に教えてくれた。そのおかげで、知らない単語をどう表現するのか、より伝わりやすくするためにどうすべきか、考え考え、どうにか自分の伝えたいことを表現することが出来た。そして Interchange を終えた後、なんだか英語に一步近づいたような気がした。またこの研修では、英語だけでなく、ハワイの歴史や魅力を知ることが出来た。特に印象に残っているのは食事で、何を頼んでもアメリカンサイズ、健康に悪そうな塩の量。日本の料理は本当

に美味しい、そう感じた。しかし段々その味にも慣れてきて、日本に帰る日には、恋しく
までなった。次に観光だ。ダイヤモンドヘッドは、登るのにやっとなほど傾斜が急だった
が、頂上からの景色は言葉に出来ないほど美しく、気づけば疲れを忘れていた。ディナ
ークルーズは本当に豪華で、友達と一緒に優雅にディナーや夜景を楽しんだ。クルーズの
最後には、花火を見ることができた。花火が打ち上げられる度に、一週間の楽しかった思
い出たち、翌日には日本に帰らなければならないということ、色んなことが頭をよぎり、
胸がいっぱいになった。そして、豪華な花火を最後にハワイ研修最終日は終わりを迎えた。
私は、この研修を通して、あらゆる角度から英語に触れ、英語を肌で感じる事が出来た。
この先、このような素晴らしい経験を出来る機会はもうないかもしれない。だから、今回
の研修を通して知った英語の楽しさを忘れずに、これからの人生に活かしていきたい。

最後に、一緒に研修に参加したみんな、先生方、そしてなによりこの研修への参加に積
極的に協力してくれた両親へ、感謝の気持ちでいっぱいだ。Mahalo!!

2年 Y. F

私はこのハワイ研修に参加して、たくさんのことを学び、得ることができたと思う。私
は今までに海外に行ったことがなく、外国という存在が自分からは遠く離れたものよう
に感じた。正直、行く前は不安と緊張であふれていた。しかし、待ち受けていたのは、心
を揺さぶられるものばかりだった。自分の英語が通じたこと、英語で会話ができること、
英語を聞き取ることができたこと、どれも私にとっては「感動」であった。また、英語
に限らず、文化や気候の面でも、日本との違いを身をもって感じ、吸収することができ
たと思う。

私がハワイ研修で特に印象に残っていることが2つある。

1つは、ハワイ大学生とのインターチェンジだ。これは私が最も楽しみにしていたもの
である。相手の質問に対し、すぐに文章を組み立てて話しをしたり、会話の内容を広げ
ることができず、英語を話すことの難しさを実感した。

あと1つは、ハワイ日本文化センター、ヴィショップミュージアムの見学だ。ここでは、
ハワイの文化や歴史、日本との関係について学んだ。ハワイにはさまざまな国や地域から
の移民が多く、独自の文化を形成してきたこと、日本から働き口を得るために移り住んだ
人たちが、過酷な状況に陥ったことなど、貴重なお話を聞かせていただいた。また、パー
ルハーバーヴィジターセンターでは、真珠湾攻撃のことについてアメリカからの視点で記
されていて、日本と違う捉え方だったので、とても興味深かった。

ハワイ研修を通して気づいたことは、自分の英語力が未熟であること、そして自分の知
っている世界は狭いということだ。英語を話すことに対して自信はついたが、それと同時
に流暢に話すまでには遠く、努力が足りていないことを痛感した。また、もっと視野を広
げて物事を考えなければならないことも痛感した。私はこのハワイ研修の中で、たくさ
んの刺激をもらった。その刺激は、勉強面ではもちろん、精神面でも自分を高めてくれた。
しかし、私はまだまだ足りない部分ばかりであることにも気づかされた。その足りない部
分を補い、外国という存在がもっと身近に感じられるようにより一層努力していこうと思
う。